

011 経営資源全般の見直しを図った BCP の策定

- ✓ 経営資源を網羅した BCP
- ✓ 全社的な取組が社員の意識に好影響を与える

取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
大成ファインケミカル株式会社	108名	地震	千葉県

大成ファインケミカル株式会社は、製品の供給責任を果たすべく経営資源全般についての BCP を平成 23 年に策定した。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

樹脂の供給責任を果たすべく、資金計画等の見直しを行う

- 大成ファインケミカル株式会社が製造・販売を行うアクリル樹脂は、電子材料やコーティング材料、化粧品材料等幅広い分野で利用されている。また同社では、少量品種や特殊用途の樹脂等にも対応し、世界でも同社のみが作ることでできる商品もあることから、災害等により事業が停止した場合、様々な製品のサプライチェーンの寸断につながる恐れがある。このため同社では東日本大震災において操業が一部停止した経験を踏まえ、震災 BCP を徹底的に見直した。
- 災害時における樹脂等の供給責任の大きさを踏まえ、見直し後の BCP では原料調達、製造、品質検査、物流、販売、資金（支払い・回収）までを対象としている。例えば資金面については、手形から現金回収への変更に加え、借入金をなくし売掛金の 3 倍の現金を保有するなどの対応体制としている。
- 経営資源については検査工程で使用する多くの試験機器の重要度が高いため、万が一破損した場合は東京の研究所にて検査工程を行うことにした。また、製造設備等の修理を外注するエンジニアリング会社の同時被災に備え、第 2 候補を確保した。
- なお同社の BCP では、目に見える経営資源の回復と事業再開を直結させるだけでなく、従業員の内的要因（家庭や住居の様子等）も考慮するとともに、人命の尊重を第一としたものとなっている。



落下防止装置などハードな減災の取組も実施

2 取組の平時における利活用の状況

- 同社は、平成 26 年に社員や近隣住民の避難を目的とした、耐震性の高い管理棟を建設した。そこで水や食料を備蓄するほか、平時には製品検査や評価の拠点機能として使用している。
- 幹部育成と事業の継承にもつながるため、同社はリーダーを代行とする教育・訓練も行っている。

3 現状の課題・今後の展開等

- より実効性の高い防災力・事業継続力の向上に向け、同社では地域や自治体との協働をより一層推進することとしている。

<p>担当者の声</p> 	<p>BCP の策定が社内外にポジティブインパクトを与える</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、顧客から、BCP 策定の有無や目標復旧時間を訊かれることが増え、これらが評価項目として広がっているのだと感じています。従業員の誰もが理解し、行動できる継続性のある仕組みとなるよう改善を行っていく方針です。 BCP 策定により、従業員のリスクに対する意識が向上しました。また、当社が従業員と職場を大切にしていることが社員に伝わることで、彼らの経営への参加意欲も高まると期待しています。
--	--

問合せ先 大成ファインケミカル株式会社 法人番号: 5040001061512
 TEL 0479-64-2077 FAX 0479-64-2288 E-Mail t_fukumoto@taisei-fc.co.jp